



桂川電機株式会社

平成26年3月期 第69期 第3四半期業績概況

本格的な収益力の回復に向けて



当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策等により、円安・株高で着実に景況感の改善が見られ、製造業を中心に緩やかな景気回復を示してまいりました。また世界経済では、北米経済は景気の回復傾向が持続しましたが、欧州及び新興国の経済は成長鈍化等先行きに不安定要素を抱えた中で推移いたしました。設備投資については緩やかに持ち直しつつも先行きへの慎重な見方からいまだ力強さに欠ける状況となりました。

こうした中、当社グループにおきましては、販売面で欧州市場の販売体制を見直し、好調な北米市場の受注の確保と売上の拡大に注力し販売活動を行い、また、開発及び生産面では、コスト構造改革を進めてまいりました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、ヨーロッパ市場で高級機の販売が伸び悩み前年同四半期を落ち込みましたが、北米市場を中心に普及機が伸びた結果、82億61百万円と前年同四半期の81億88百万円に比べて72百万円の増収となりました。営業損益は、人件費や経費削減、部材の内製化等により売上原価及び販管費の低減はできたものの、欧州での売上高の減収により、2億37百万円の損失（前年同四半期は4億32百万円の損失）、経常利益は為替差益を6億4百万円計上したことにより、4億32百万円の利益（前年同四半期は4億32百万円の損失）、四半期純損益は4億16百万円の利益（前年同四半期は4億80百万円の損失）となり、組織業務の改善に加え、円安傾向といった為替の追い風を背に、収益力の回復に向け進行中です。

2014年3月期 第3四半期連結業績概況

KIP

<単位：百万円>

項目	2013.3-3Q 実績	2014.3-3Q 実績	前年同期 増減額
売上高	8,188	8,261	72
売上総利益	1,745	2,017	272
営業利益	△745	△237	508
経常利益	△432	432	864
純利益	△480	416	896

<主要な為替レート>

通貨	平均	期末
1ドル	¥96.71	¥105.39
1ユーロ	¥127.34	¥145.05

※当第3四半期決算採用レート

組織とビジネスの見直しをチャンスに、 昨年をボトムとして飛躍を！

当社グループの強みは、1960年代に開始し、その後継続して現在当社グループの基幹となる電子写真技術応用の複写機、プリンタ、スキャナといった画像情報機器に係る長年にわたり重ね築き上げた良好な経験とスキル、そして卓越した技術力にあります。

時代は変われども、開発型メーカーに求められるものは、揺るぎない技術力への自信と真摯なる謙虚さ、探求心かと思います。

当社グループは、それを根底に更なる一步に絶えず歩みを進めて行く所存です。

事業別の売上概況

KIP

画像情報機器事業 8,169百万円（前年度比 68百万円増収）

- 円安が業績向上に寄与し、市場競争が一段と激化する中、売上高は前年同期比でやや増収
- 北米市場を中心に普及機モデルの伸び
- 低価格帯モデルは、積極的な需要喚起を図る

その他事業 91百万円（前年度比 4百万円増収）

- モーションデバイス事業の販路拡大を継続

事業別の業績-画像情報機器事業

KIP

画像情報機器事業

<単位：百万円>

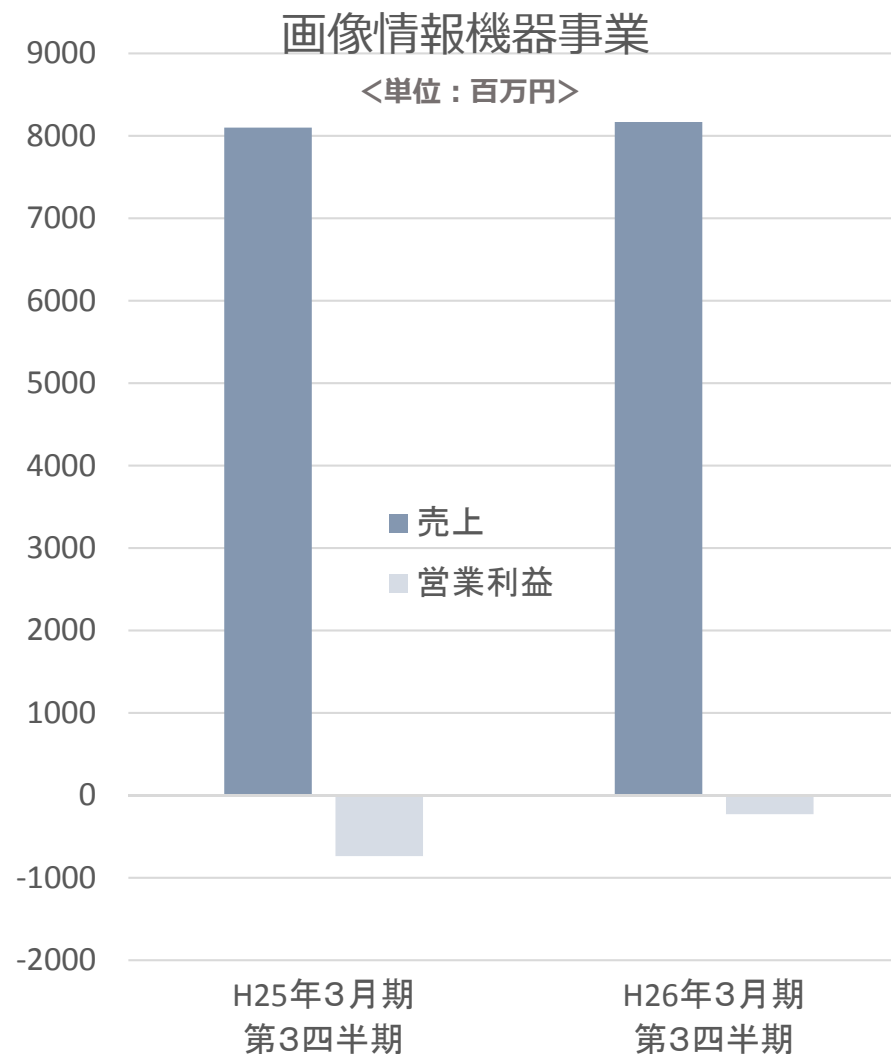
	H25.3 2Q	H26.3 2Q
売上	8,100	8,169
営業利益	△737	△227

<アメリカ市場>

⇒営業努力により、収益悪化に歯止め
⇒モノクロモデルを中心に営業活動を展開

<ヨーロッパ市場>

⇒カラー機の拡販に注力
⇒モノクロモデルは他社製品との競争激化



事業別の業績-その他事業

KIP

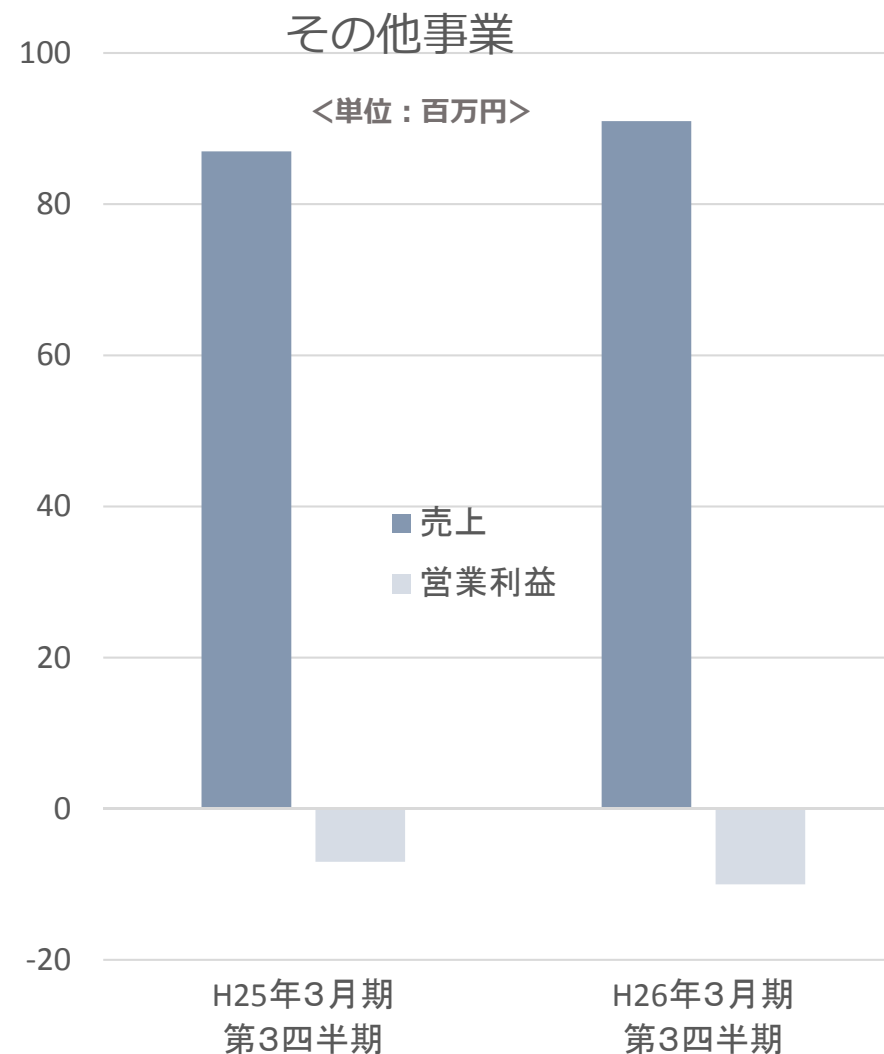
その他事業

<単位：百万円>

	H25.3 2Q	H26.3 2Q
売上	87	91
営業利益	△7	△10

<モーションデバイス事業>

⇒マイクロモータ等を主体に顧客ニーズを
キャッチアップした製品開発・品質向上
に注力



営業外損益

KIP

前3Q	336百万円
営業外損益	691百万円

<主要な内訳>

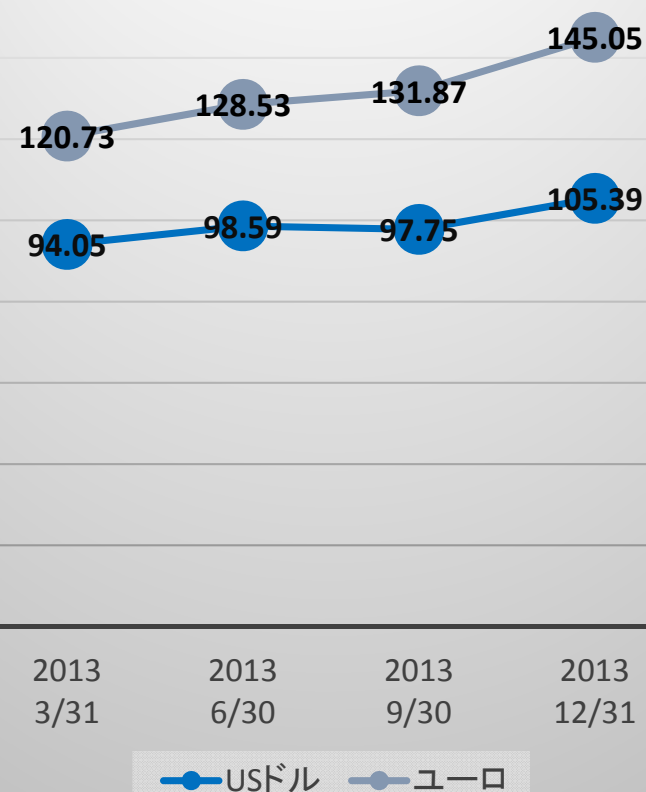
◆為替差益 **604百万円**

今期も、対ドル・ユーロで円安基調で推移。

※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMレート

【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

主要な取引為替レート



今後の取組について



生産構造改革を含むコスト低減による収益構造改革

事業環境を勘案し、人員の適正化を含む組織再構築による
収益構造改革

技術開発情報の共有化と共に、市場ニーズを的確にとらえた
製品開発

製品・サービス供に品質の更なる向上

新規事業の開拓

